

時の階

平成 28 年秋号
(第 4 号)

平成 28 年 11 月発行

三郷市文化財サポーター代表

発行：記録広報部会

事務局：生涯学習課

048-930-7759

平成28年度

新文化財サポーター活動開始!

平成 28 年度、新たに 5 名の方々が文化財サポーターに参加してくださいました。

サポーターに新たに参加して下さった皆さんのご感想と抱負を今回と次回に分けてご紹介します。

5 月からの講習を受け 7 月よりサポーターの資格を頂きました。

そしていきなり、堀切幸内氏宅の蔵調査に参加させて頂き、猛暑の中、4 基の石碑を車に積み下ろしをした

時は重い、暑い、辛いと思い、最初からこれでは続くか心配でした。

でもみなさん良い人ばかりでしたので、何とか頑張れそうな気がしました。

今後の活動、やってみたいことは、私は地図を見るのが好きで、今と昔の違い、昔の街道、具体的には彦成通り（岩槻街道・慈恩寺道）の昔の家並みがどうであったかを調べてみたいと思っています。

仕事を始めてしまったので活動日

があまり取れなくなると思いますが、なるべく出られるときは出ますのでよろしくお願いします。

赤石 章



三郷へ引っ越して 10 年が経ちま

したが、勤めていた間は家と会社の往復で地域についてあまりにも知らないままに過ごしてきました。退職後、少し時間に余裕ができたので「三郷を知るには博物館!」と思い、「新

しく出来た資料館に足を運んだものの、何だかよくわからない...

そこで市の文化財サポーター講座に参加しました。その中で「なさない資料館だなあ」と思った気持ちを人任せでなく変えなくてはいいな」と知りました。

まだ参加して 4 か月ほどですが、交流会、古文書の勉強会、取壊しになる蔵の調査（これは真夏でつらかった）、彦成講堂記念館の資料整理などをして、三郷で生活している方々と知り合いながら、地域を知る活動だと感じました。

知識を得る座学ばかりでなく、カルチャーセンターとも一味違う経験が出来そうで期待しています。

今後とも変わりゆく三郷の今と昔を語り継ぐ資料館を充実させるため、お手伝いを担えれば嬉しいと思っています。

田中 眞弓

堀切幸内家の納屋の調査を行いました

7月11日に三郷市栄の堀切幸内家の納屋の解体にともなう調査が行われました。

三郷市栄は、かつての境木村、酒井村を中心とした地域です。

堀切幸内家は江戸時代には境木村の名主も務め、先代堀切喜盛次氏が戸ヶ崎村や東和村の村長も務められておりました。市史に関わる古文書もたくさん残されています。



今回の調査に際して、什器や文書など数多くの貴重な資料を調査のため、お預かりしました。



8月から9月にかけて、数回にわたってお預かりした資料の整理が講堂記念館で行われ、文化財サポーターも参加しました。

什器は文化財専門嘱託員の浅野先生のご指導の下、一点一点、丁寧に梱包を解き、記録写真を撮影、文化財としての記録を取りました。その後、梱包と什器はそのままと虫がついてしまうので、分けて保存しますが、それぞれがばらばらにならないよう、共通の番号で管理します。

文化財、特に民俗文化財は骨董品

と違いそのものが高価な芸術品というわけではありません。そのものがどうやって使われてきたかその来歴が郷土の歴史を物語ることに重要性があります。

今回の調査でも会津塗の什器セットの梱包から、保護用の紙として昭和初期の新聞紙が出てきましたが、未開封のものは造られた会津地方の記事の書かれた新聞紙、開封後の梱包からは埼玉地区の記事が出てきました。こうやって、作業の中から、「歴史の生き証人」が顔を出してくれるのも文化財サポーターの楽しみの一つです。

文書は内容ごとに分類して、劣化しないように中性紙で作られた専用の封筒に保存していくのですが、崩し字で書かれたものも多く分類に変時間を費やしてしまいました。

サポーターのメンバーの多くが古文書講座や文書部会の崩し字の勉強

会などに参加して、崩し字の読み方の勉強はしているのですが、いざとなると、実際にはなかなか読めないものです。



改めて、継続的に崩し字の学習をしていく必要を痛感しました。

それでも読むことのできた範囲では文書資料には明治時代初めの境木村の土地行政にかかわる文書が数多く含まれていました。

名主という立場で明治維新に立ち会った、当家の歴史を色濃く反映していたのが印象的でした。

屋外展示

鬼瓦・馬頭観音・

十三佛供養塔

堀切幸内家からお預かりした資料の中に鬼瓦と馬頭観音、十三佛供養塔があります。これらが、資料館の入り口に屋外展示されました。

鬼瓦はもともと堀切幸内家の母屋にあったものだそうです。



手前と中央の鬼瓦が

今回お預かりしたものです

馬頭観音、十三佛供養塔はもともと、境木公民館にあった物を堀切さんのお宅で引き取った物とのことです。

馬頭観音は三基あります。これらは聞き取り調査によれば、軍馬供出に伴う馬の供養塔とのことです。

二基には側面に文字が彫られていて、二基とも向かって左側面には「堀切氏」と彫られています



右側面には中央に展示された一基には「于字明治廿八年征清ノ役徴發

ニ應ス故ニ碑ヲ建ツ也」とあり、もう一基には「明治二十七年二月」とあります。



ここから一基目は日清戦争の挑発に応じて供出した馬の供養のための馬頭観音であることがわかります。

もう一基も明治三十七年（1904年）とあることから日露戦争での軍馬供出にかかわるものでしょう。



十三佛（仏）供養塔は正面の碑文から、江戸時代中期にあたる元文二年（1737年）に地元、酒井村・

境木村の十三仏講のメンバー十七名によって建立されたことがわかります。

十三仏とは初七日から三十三回忌までの十三回の追善供養の仏事をつかさどる十三の仏のことです。

講というのは現在では少なくなっ てしまいましたが、近隣の人々が集まって共同で何かを行うグループのようなものです。

この供養塔はとても保存状態の良いもので、蓮の花の上に彫られた十三仏をあらわす13の種字（しゅじ）：古代インドから伝わった文字）

が今でもはっきりと見て取れます。

馬頭観音・十三佛供養塔ともに大変に見ごたえのあるものですので、資料館に足を運び、ぜひ現物を間近で見て、彫られた文字を読んでみて、石造物史料の面白さを感じてもらえればと思います。

講堂記念館

蔵書目録が出来ました

彦成小学校の講堂記念館には数多くの文化財関係の書籍が保管されていますが、その整理がなされていませんでしたので、文化財サポーターの志子田さんが中心となって、その整理も継続的に行ってきました。

8月下旬にその成果として、大変に立派な蔵書目録が出来ました。

200ページにもわたる大変立派なものです。



これでもまだ完成ではなく、完成は今年の11月ごろを予定しているとのこと。完成が待ち遠しいですね。

夏の展示替え

暮らしの中のお祭り



6月6日に事務局の佐藤さん、サポーターの相徳さんを中心に、三郷も祭りのパネル展示がリニューアルされました。

夏には悪魔祓いや疫病除けのための祭りが多く行われます。

今回のリニューアルでは彦成の夏祈禱百万遍や番匠免の大殿若祭り等を中心に紹介する展示となりました。



そのうちのいくつかは隣に設置されているタッチモニターで、実際の祭りのようすを映像で見ることが出来ます。



編集後記

広報誌第4号がようやく発行できました。

今年度からのサポーターのみなさんも活動に参加してください、ますます活発になってきました。

今回は堀切幸内様の御宅での調査やご寄贈していただく史料の整理にかかわる話題が中心になりました。

本文中でも描かせて頂きましたが、さまざまな史料に直接触れるのは文化財サポーターの醍醐味の一つでもあります。

今回は特別展「三郷市の仏教と仏像」展についての話題が中心になると思います。ご期待下さい。

